

## 1 大会山域について

福智山地は、カルスト台地の平尾台とともに北九州国定公園の中核をなし、皿倉山から権現山、尺岳、福智山と北九州の背骨のように南北に連なり、さらに牛斬山から五徳越峠を経て、香春岳で筑豊盆地に沈む。

鷹取山は山城跡で、その鷹取山城は「黒田六端城」のひとつとして家臣の母里太兵衛友信が城主をつとめた城である。筑前と豊前の国境にあるため、筑紫氏、菊池氏、大友氏、大内氏などの勢力が激しく争った城でもある。

福智山は福智山地の主峰で、標高は900.5m。北九州市小倉南区と直方市、田川郡福智町にまたがり、英彦山修験道の行場であった。この自治体の一つである福智町は、2006年に麓の方城町、赤池町、金田町が合併して誕生したものであるが、その名前は福智山に因んで名付けられている。山麓には白糸ノ滝、大塔ノ滝、七重ノ滝を懸け、中腹から尾根筋にかけてはイヌシデ、アカガシ、ケヤキの自然林が広がる。ススキの波打つ山頂からは360度の展望が広がる。

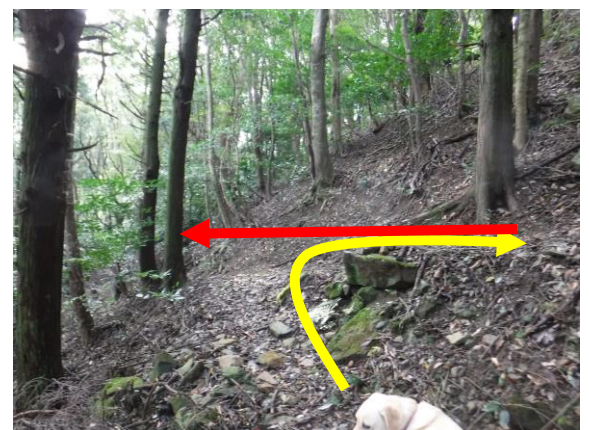
尺岳は、福智山から5kmほど離れた尾根上の一突起にすぎない目立たない山である。しかし山名の由来となった山頂の背比べ岩からはすばらしい眺望が広がる。

## 2 大会コースのルートガイド

直方いこいの村から、舗装道路をしばらく歩く。左手に内ヶ磯ダムが現れ、なおも進んでいくと、右手に古い石段が現れる。これが鳥野神社の入り口（右の写真）である。境内まで石段を上がり、社殿の右奥へ山道が続いている。



ここからの登りは、山腹をトラバース気味にジグザグに高度を上げていくが、足元が下方に向かって斜めになっていることが多く、滑り落ちないように気を付けてほしい。尾根筋に上がるとその心配もなくなるが、トラロープが張ってあるかなりの急勾配も途中にはあるので、やはり油断せずに進みたい。ヒノキの植林が現れると鷹取山も近い。右の写真の黄色の矢印のように一度鷹取山山頂に寄り、チェックを受けること。



眼下を流れる遠賀川などの眺めを楽しんだ後は、赤色の矢印のように上野越の方に進む。上野越は四つ角になっているがこれを直進する。

福智山山頂に近づいてくると、いくつもの分岐点が現れるので、間違えないように進んでほしい。大会コース図の通りに行けばよいのであるが、参考に2か所の分岐点での方向を、次ページの写真に黄色の矢印で示しておきたい。



福智山山頂で、チェックを受け、360度のパノラマを眺めた後は尺岳へと向かおう。山頂か

らは右の写真のように祠の右を下っていく。<sup>こうしゆくそう</sup>荒宿荘と、たぬき水とよばれる水場を抜け、鳥落ちへと下る。この辺りから傾斜が緩やかになり、自然林の中の快適な縦走路である。**豊前越**、**山瀬越**と通過し、頓野林道と交差する地点に達する。ここから尺岳の区間は往復することになるので、チーム同士ですれ違うこともあろう。互いに譲り合って進んでほしい。



林道を越えてしばらく行くと、赤松台とよばれる地点がある。名前の通り、大きなアカマツが群生している。ところどころに分岐があるので、尺岳の方に間違いなく進んでもらいたい。尺岳平の休憩所を過ぎ、まっすぐ奥へ進み、少し登ると**尺岳**の山頂へ到達する。ここで、最後のチェックを受けた後、ゴールへと向かおう。前述のとおり、林道との交差点までは引き返すことになる。



林道に出たら右へと進む。林道を緩やかに下っていく途中に、左側から山瀬越から下りてきた道、続いて豊前越から下りてきた道が合流（**豊前越分岐**）してくる。いざというときにはエスケープルートとなる道である。さらに進んでいくと車両止めの**林道ゲート**がある。この脇をすり抜け、少し行くと右の写真のように林道をショートカットする登山道が現れる。同じような地点が3か所あり、最後の登山道では橋のかかった渡渉点があり、これを下ると福智山ダムを周回する車道へと出る。



車道を進み、226mの**鷹取トンネル**を抜け、なおも進むと鳥野神社の脇に出る（右の写真参照）。ここで車道と別れ、境内に入り、朝登ってきた石段を下り、右に行くとトイレと休憩所のある**内ヶ磯キャンプ場**のゴールに着く。

### 3 荒天対策

- (1) 荒天の為、全ルートを登山する事が不可能な場合、①上野越から下る、②烏落ちから下る、③豊前越から下る、④山瀬越から下る、などが考えられる。
- (2) 当日状況を判断し本部より指示を行う。